

「税理士への道」

経営学部の卒業生には、税理士として活躍されている方々が多勢います。そこで本学経営学科で学び、税理士になるという夢を叶えた二人の卒業生に話を伺いました。どんな思いで勉強に取り組んだのか、夢を叶えた先に待っているものは何かなど、たっぷりと話をしてくれました。

～税理士という夢を叶えた卒業生～

経営者や企業を支える会計の専門家である『税理士』の魅力を聞きました。

“よく学び、よく遊ぶ”
という教えでたくさんの
人と出会えました

司会：谷地さんと田中さんに
質問です。どうして東北学院
大学に入学しようと思ったの
ですか？

谷地：私は専門学校で税理士
になるための勉強をしていた
のですが、もっと深く勉強し
てみたくて編入制度を利用し
て東北学院大学に入学しまし
た。

田中：僕は商業高校出身なん
ですが、簿記や会計に強い関

心を持って、大学でも続けて
勉強したいと思っていたのと、
全国にたくさんの卒業生がい
る東北学院大学に入学しまし
た。

谷地：私も卒業生の多くが仙
台で活躍されていることに関
心を持って、そうした人たち
と繋がりを持ってたらいいな
と思いました。

司会：学生生活でもっとも印
象的な思い出を教えてください。

谷地：ゼミでの活動が一番の
思い出ですね。所属した高橋
先生のゼミは「よく学び、よ
く遊ぶ」がモットーでしたの
で、ゼミ合宿やインゼミ（討
論会）に参加したことが、特
に思い出に残っています。

田中：僕も高橋先生のゼミ
だったから共通しているけれ
ど、勉強もしたけど、人との
繋がりをとても大切にしてい
て、そのおかげで先輩や後輩
など、今でも相談しあえる仲
間ができたことですね。高橋
先生とは大学院へ進みたいと
考えていたときに親身になっ
て相談にのってくださったこ

とを覚えています。その後は
先生のご自宅にお邪魔したり、
論文の書き方を丁寧に教えて
いただいたり、いろんな経験
が今の仕事の基礎になってい
るんですよ。

谷地：私もゼミでお世話に
なって、事ある毎に指導を受
けていました。社会人となっ
た今でも忘年会に誘っていた
くなど、長くお付き合いさ
せていただいているんですよ。



1学年違いの二人
は、大学卒業後も
高橋ゼミの集まり
などで顔を合わす
仲。互いに税理士
となるために努力
した戦友でもあり
ます。

司会：そんなお二人の恩師で
ある高橋先生は田中さんと谷
地さんにどんな思い出が残っ
ていますか？

高橋：二人はよく勉強してい
た学生で、本学で税理士を養
成するコースが具体的になっ
たのが、彼らが入学した頃か
らだったと思います。

谷地：私が在学していた頃の



高橋志朗 / 経営学部長

経営学科は若い年齢の先生が
多かった印象で、話がしやす

かったですし、「わからない
ことがあれば何でも聞いて」
などと先生から話しかけてく
れることも多く、勉強しやす
い環境だと思いました。

「初めての試験は何も書
けなくて悔しくて泣いて
帰ったんです」

司会：税理士をめざそうと
思ったきっかけはどんなこと
だったのですか？

田中：入学して初めて隣に
座った仲間と仲良くなって、
その彼が「税理士になりたい」
という夢を持っていて、その
話を聞かなければ税理士をめ
ざすことはなかったかもしれ
ませんね。

司会：大学での学びと税理士
になるための勉強に、どんな
違いがあるのでしょうか？

田中：確かに違います。大学
では世の中の経済状況すらよ
くわからないところから教え
ていただきました。何で税理
士という仕事があるのか、税
金の計算方法や税法、会計に
関してもベースから教えてい

ただいたの、大学での学び
は大きかったと思います。

谷地：私は専門学校との比較
になってしまっていますが、大学
は100点を取るための勉強で
はなく、学問を学ぶための背



谷地 歩
阿部会計事務所勤務

2006年3月経営学科卒業、2009年3月
に大学院経済学研究科経済学専攻修了
福島県出身。地元の高校卒業後、仙台の会
計専門学校へ進学し、2004年に税理士に
なるという夢を叶えるために経営学科に編
入した。



田中良寛
ホームオフィス仙台勤務

2005年3月経営学科卒業、2007年3月大
学院経済学研究科経済学専攻修了
青森県出身。商人の家系に育ち、祖父の言
いっけで地元の商業高校へ進学。そこで学んだ
簿記や会計に興味を抱き、税理士となった。



経営学科の学生が空き時間などに利用する教室に訪れ、参考書などを眺めて昔話で盛り上がりました。

景や考え方など、知識を深めていくための学びだったと思います。

司会：税理士という資格を取るために、一番難しかったことは何でしたか？

谷地：8月に試験を受けて12月の発表までかなりの時間があるので、受かっていたらいいですけど、受かっていなかったときの怖さもありました。その間も勉強しますから、とにかくモチベーションを保つのが大変でした。

田中：初めての受験では、緊張から何も書けなくて、悔しくて泣いて帰ったほど酷かったです。鼻っばしをへし折られた感じで、その苦い経験があったから就職活動をまったくせず、税理士の試験一本でいこうという気持ちになれたと思います。

谷地：それだけに合格できたときの達成感は大きかったですよね！

田中：やったあ！という喜びよりも、やっと終わった！という感じでした。緊張感から解放されて、ほっとした感じ。

谷地：私も、ただただほっとしました。

「お金の計算だけではなく、人間同士の信頼関係が大切なんです」

司会：税理士の仕事とは、実際にどんなことをするのか。またそのやりがいは何か。将来、税理士になりたいと思っている人たちに向けてお話しください。

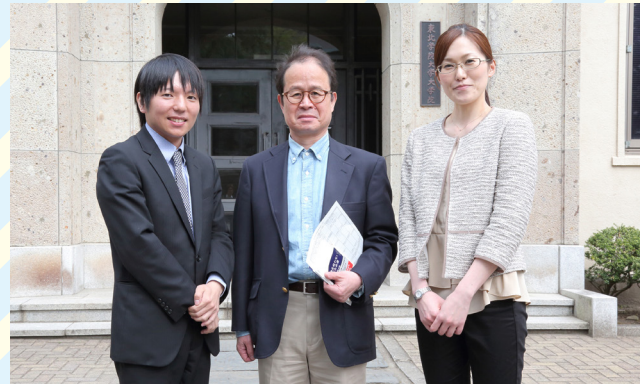
田中：わかりやすくお話しすると、会社の財布の中身を見せてもらって、一年間の売上げや支出などを計算します。損益計算書は学校に例えるなら通信簿のようなもので、一年間の頑張りがわかります。貸借対照表は健康診断と同じで、今どれだけの財産があって、お金をこれくらい借りていますという内容を数値化します。それらの書類から税額を計算するのが税理士の仕事です。

谷地：私が務めている会計事務所の場合、小売り、不動産、飲食店、医療など幅広い業態

の会社を担当しています。会計事務所によって違うかもしれませんが、私の場合は会計の最初から最後まで担当させていただいているので、終わったときの達成感は大きいし、やりがいと責任を感じています。

司会：田中さんが仕事のやりがいを感じられる瞬間はどんなときですか？

田中：お客様から「ありがとう」と言われることに、大きなやりがいを感じています。そこに至るまでには信頼関係を築けていないといけないう、仕事以外の話ができるということは心を開いてくれたこと



になると思っています。

谷地：私も「ありがとう」という言葉をかけていただくと、やっていたことは間違っていなかったんだと思えるし、まだまだ頑張らないといけないと思えるんです。また、経営者の方の多くは歴史

好きの方が多くて、授業で学んだ商業の歴史などの話題で話が広がるのがよくあります。

「“なりたい”という気持ちがあれば、夢は叶えられます」

司会：これまでたくさんの企業の会計に携わってきたお二人ですが、今描いている夢はどんなことですか？

谷地：私たちの仕事は機械にはできない仕事だと思っています。税理士以外の仕事にも興味はありますが、会計を通じて顧客の仕事を疑似体験さ

せていただいている感じです。これから先、いろんな会社や経営者の方と出会うと思いますが、自分が納得できる仕事を続けていきたいですね。

田中：会社そのものはもちろんですが、そこで働く人たちにも「この職場で良かった」



左はボロボロになるまで何度も読み返した田中さん所有の教本と試験免除通知書。右は谷地さんの教本にはマーカーや書き込みが無数に残されています。

と思ってもらえるよう、お客様の組織作りにも貢献できる会計事務所を作りたいと思っています。

谷地：たしかにそうですね。経営学は、社会に出ても身近に感じられる学問です。その中で、税理士というのは社会の動きに近い職業だと思います。高校生の皆さんが少しでも簿記に興味があるのなら、その先の税理士までめざしてほしいですね。高みをめざすことは自分にプラスになるし、何かを積み重ねていくことは、後々の人生に良い影響をもたらしてくれるはずですよ。

田中：自分が持っている思いを強く持ち続けられれば、夢は実現できると思っています。「なりたい」という夢を持っているならば、気持ちを強く持って突っ走ってほしいですね。

高橋：田中さんと谷地さんがそうだったように、学部と大学院をあわせた6年間で、段階的に関門を通過しながら税

理士になれるプログラムを自分のペース進めていける点が本学の特色だと思います。税理士という高嶺の花を掴むには時間がかかるんだけど、成し遂げてきた先輩もたくさんいるので、希望を持って頑張れる学生が一人でも多く入学してくれることを願っています。

